

第2回鶴岡市赤川かわまちづくり推進協議会（会議録）

- 日 時 令和2年2月19日（水）午前9時30分～午後12時20分
- 会 場 鶴岡市役所別棟2号館21、22、23会議室
- 出席委員 渡邊 一哉会長、黒井 晃委員、山田 鉄哉委員、佐々木 邦夫委員
佐藤 しおり委員、佐藤 友介委員、佐藤 利浩委員、阿蘇 裕矢委員
渡辺 理絵委員、浅賀 大輝委員、菅原 元委員、中村 哲也委員
土田 一彦委員
- 欠席委員 水野 重紀委員、石原 純一委員、渡邊 真理委員、田村 昭委員
小林 幸一委員、菅原 武士委員
- アドバイザー 酒田河川国道事務所 副所長 佐藤 俊明氏
- 国・市出席者 酒田河川国道事務所
工務第一課長、河川管理課長、赤川出張所長、工務第一課専門官
鶴岡市
建設部長、建設部参事、都市計画課長、環境課長、羽黒庁舎産業建設課長
榎引庁舎産業建設課長、農山漁村振興課水産振興主幹、スポーツ課長補佐
観光物産課主査、藤島庁舎産業建設専門員
公園緑地係長、公園緑地係主任、公園緑地係主任
- コンサル ㈱三協技術 3名
- 公開非公開 公開
- 傍聴者 なし
- 次 第
1. 開会
 2. あいさつ
 3. 委員紹介
 4. 報告・協議
 - (1) これまでの経過報告
 - (2) 整備内容の確認について
 - (3) 利活用、維持管理について
 - (4) 今後のスケジュールについて
 5. その他
 6. 閉会

会議概要

1. 開 会

- ・都市計画課長による開会宣言

2. あいさつ

- ・増田建設部長によるあいさつ
- ・渡邊一哉会長によるあいさつ

3. 委員紹介及び定数報告

- ・出席者名簿による委員及びアドバイザーの紹介
※アドバイザー 国土交通省酒田河川国道事務所 佐藤副所長よりあいさつ
- ・委員 19 名のうち 13 名の委員が出席により、本会が成立していることを報告

4. 報告・協議

議長：渡邊一哉会長

(1) これまでの経過報告

- … 事務局による資料－1（P 1～P 19）の説明 …
- … 酒田河川国道事務所による資料－2（P 1～P 4）の説明 …

【質疑応答】

《委員》

- ・社会実験に関するアンケートは我々山形大学の学生が行い、移動販売車の効果等について考察させてもらった。
- ・移動販売車の利用者が非常に少なく、それ自体も問題だと思う。
- ・資料1－P 16「3. 顧客満足度の平均値」によると全体的に顧客満足度が高い反面、P 17「愛着・信頼」すなわちロイヤリティという指標で見ると、非常に開きがあることが分かる。「愛着・信頼」という指標が商品や場所の継続的な利用に直結するという指標が出ており、NPS（推奨度）を高めることが今後赤川かわまちづくりにおいて重視しなければならない件かと思う。
- ・この指標は、本来は飲食店のような店舗だと、提供されるサービスに空間の居心地の良さを加えて測るもの。今回は、この「空間」が赤川河川敷になり、この空間を、より愛着・信頼のある空間にすることが、今後NPSを高める上で大切なのではないかということが、今回の調査結果から見えてきた。

《委員》

- ・楡引地区のやすらぎ公園では、黒川地区にある店舗が車で団子等を販売したり、酒屋がジュース等を販売したりしている。団子等は人気があり、酒田からも買いに来るようだ。今後も移動販売の手法で、桜を見に来た人に地域特産の団子を売れる場所にしていきたいと思う。

《委員》

- ・社会実験の営業時間帯は15時から18時が多いがなぜか。

＜事務局＞

- ・事業者の都合により決定した。事業者より平日の日中しか活動できないと相談を受け、その結果このような活動となった。我々としても今後継続していきたいと考えているので、条件等の見直しを行い、より良い取り組みに生かしていきたいと考えている。

《委員》

- ・ほかの地域でも社会実験の調査を行っているのか。また、ほかの地域ではどのようなアンケートの評価なのか。
- ・出店業者に対するアンケートの点数は高くなっている。
- ・行政との協力体制をしっかりと行くと、より利用しやすくなるのではないか。
- ・イベント日程を行政から業者へ告知したり、イベントにふさわしい業種へ出店依頼したりしてはどうか。

＜アドバイザー＞

- ・社会実験は全国で行われているが、一般的には拠点を決めて出店する固定式店舗となっている。今回のような移動販売車での社会実験は、おそらく初めてだと思う。
- ・評価に関しては、今回のアンケートを見ると移動販売車に関しては評判が良く、本来は河川空間に来ていた人に利用してほしいところであるが、社会実験を目的に来訪した人が多いのも興味深く、これらのデータをうまく活用しながらかわまちづくりの活性化に結び付けられれば良い。

《会長》

- ・今回の社会実験での意見や結果を踏まえて進めてほしい。
- ・社会実験の調査結果の資料1-P18に大変大事なことが記載されている。サービスがこれからの成長要因になるが、空間整備と密接に関与するのではないかと読み取れる。そのため、次の協議事項である整備内容がかなり重要になるのではないかとと思われる。これまでの説明にあったワークショップで出た意見を参考に、次の整備内容の協議にも臨んでいただきたい。

(2) 整備内容の確認について

… 事務局による資料-3 (P1~P30) の説明 …

【質疑応答】

《会長》

- ・これまでは主に下流域の整備内容についてワークショップで話し合ってきたが、これは、事務局からの提案のもと上流下流にエリア分けしたことから協議してきたものであり、事業の着手も下流域から進めることとして我々は認識している。先程の説明では、上流域についても測量設計を行うとのことであったが、そもそも上流域の内容について十分な議論をしておらず、このまま当初の予定を変更し上流域の測量設計を行うことは、この協議会やワークショップでの市民意見を反映していないと感じられる。
- ・なぜ上流域の測量設計に着手するのか、また、そこに市民意見を反映させる時間的余裕はあるのか。

<酒田河川国道事務所>

- ・まず、上流域の測量設計の着手理由について、上流域については、現段階で皆さんに意見をもらえるような参考図面等もないことから、今後予定しているワークショップ等でも参考資料として使用できる図面等を作成する測量設計に着手するもの。確かにこれまでは下流域を先行して事業着手し、その後に上流域の着手ということで説明を行っており、急な予定変更となるが、あくまでもワークショップ等で意見収集を行うための概略設計となるので、そのまま工事発注を行うような詳細設計ではないということをご理解願いたい。なお、下流域については詳細設計を進めていく。

《会長》

- ・概略になるものとして、我々市民からの意見を反映させる時間があるのか。

<酒田河川国道事務所>

- ・資料1-P21に記載されているが、上流域については令和6年度から整備工事を行い、令和5年度に詳細設計を計画している。そこまでに令和2年度に行う概略設計で作成した図面等を使用しながら上流域のワークショップを重ね、市民意見を反映させた詳細設計につなげていきたいと考えている。

《委員》

- ・かわまちづくりは、「まち」の機能と「かわ」の機能を融合させて新たな都市空間を形成していくニュアンスと考えている。そうすると、人々が赤川河川敷に行く、興味をそそるような具体的手法が求められると思う。例えば赤川花火大会は、普段は河川敷に8万5千人も来ないが、魅力があるから来ていただけだと思う。今回の維持管理に、魅力的な具体的手法が盛り込まれているか疑問に思うのだが、スケジュールではどのあたりで盛り込む予定か。
- ・安全と安心について、具体的手法として盛り込んでほしい。看板とあるが、個人的には防犯カメラの方が安全確保できると思う。それらを組み込む段階について、計画を教えてほしい。

<事務局>

- ・維持管理については、整備と一緒に考えるべきものと考えている。協議会の場で皆さんから声を出していただき、一緒に考えたい。維持管理の内容として誰が何をしていくのかや、整備後も継続できる維持管理の手法を協議会やワークショップの場で考えていきたい。資料1-P21の2番に全体スケジュールが記載されているが、令和2年度以降も引き続きワークショップを計画している。その中で、維持管理の部分についても一緒に考えながら進めていきたいと事務局では考えている。
- ・ハード面としての防犯カメラ等については、すべてが設計の段階にあたるではなく、今後そのような声があれば臨機応変に対応したいと考えているため、忌憚のない意見を頂戴したい。できることとできないことがあると思うが、意見を取り入れ、より良いものができるなら、見直ししながら進めたいと考えている。

《委員》

- ・私は犯罪が起きてほしくないと考えている。フェンス等で水の事故は防げると思うが、人が集まると犯罪が起こると思う。最善の方法は「監視されている」と認識することだと思う。

《委員》

- ・現在の赤川は、魚の住みづらい川になっている。魚の住みやすい川にするには色々な方策があると思うが、魚の住みやすい川底になるよう、川の中の整備もしてほしい。

《会長》

- ・空撮映像や親水護岸の整備イメージ図にもあったが、河道内の特に三川橋付近は、流れの速い湍筋が左岸側の人が一番訪れる部分にあり、川に入るのは難しい。水辺だけではなく水の中まで入れるよう、行政側特に河川管理者側から何かアイデアは無いかな。

＜アドバイザー＞

- ・最初に下流域を設計するが、素材や勾配等はこれからだと思う。皆さんの意見を汲み上げながらの設計になると思うが、魚が遡上しやすい、川の中の自然を生かしながら遊べるような内容を今後詰めていきたい。
- ・資料2-P2に記載されているが、「赤川自然再生事業」が平成17年度から25年度まで行われてきた。そこでは魚が遡上しやすい環境を作ったり中州のハリエンジュ等を伐採したりして、今はモニタリングをしている最中だ。今回は川の中は触らない予定だが、護岸造成時に自然や魚にやさしい形にすることは可能と思われるため、そこで考慮したいと思う。

《会長》

- ・新しい施設をつくるだけではなく、河川管理の業務の中に入れて作業してもらえれば良いと思う。
- ・事業前に測量は必ず行われるが、物があることが前提だと思われる。河道内の測量はこれからでも可能という理解で良いか。令和2年度以降のワークショップ等の意見を反映させることは可能か。

＜アドバイザー＞

- ・現時点で河道内の測量の着手予定はないが、早い段階で声を挙げてもらえれば可能かと思う。
- ・市民意見の反映について、できるだけ早い時期であれば可能。例えば12月頃にワークショップ等をした場合では意見反映は難しいと思う。
- ・令和3年度から工事着手するため、下流域についてはあまり大きな変更はできないが、少なからず可能と思う。

《会長》

- ・事業期間とお金には関わりがあり、意見を反映させるには時間的制約があることは承知している。
- ・今回、令和2年度の測量事業の計画に関する説明を受けた限りでは、かなり時間的な余裕もなく、測量案の想定があるなら事前に情報提供をしていただく必要があったと感じている。
- ・上流域もこれまでと同様にワークショップや推進協議会を開催するのは難しいと思う。
- ・今後も協議会やワークショップを行っていくものと思われるが、そういった場で意見が出て大きな変更要請があれば、なるべく対応いただければ有難い。
- ・上流域も含めて令和2年度に設計とのことだが、かわまちづくりは上流域も含めて一体のもので、まちとの接続も大切になる。関心を持ち、事務局側とも互いの情報を交換しながら進めていければと思う。

<酒田河川国道事務所>

- ・承知した。

<事務局>

- ・情報提供と共有に努める。

<アドバイザー>

- ・鶴岡市で整備を計画している園路は舗装するのか。

<事務局>

- ・現計画では、舗装を考えている。

<アドバイザー>

- ・下流域がこれから設計発注になるが、下流域を設計すると概ね上流域の陸部も想定できるようになると思う。上流域は川の風景が異なり、礫が多い部分がある。現場に即した護岸の概略設計を想定でき、ある程度の環境整備内容を話せるようになると思う。
- ・芝生広場は平らなイメージなのだが、遊具を設置するだけでなく起伏をつけることなども検討してほしい。そり遊びができるようになるし、子どもにとっては面白いと思う。他とは異なるイメージで自由に遊べる芝生広場をつくったら良いと思うので、検討願いたい。
- ・芝生広場川側のフェンスは邪魔で、景観的にもまずいと思う。少し小高くし川岸に寄りにくくし、河畔迄のスペースをつくり安全を確保する等、人工的構造物に頼らない方法もあるので、考慮願いたい。

(3) 利活用、維持管理について

… 事務局による資料－3（P31～P33）の説明 …

… 事務局より本日欠席委員からの意見及び提案の紹介 …

《委員》（当日欠席につき事前聴取）

- ・桜の手入れについて、私が会長を務める桜の会、地域の方、一般市民の方と一緒に、2月3月は枝の剪定、桜の咲いた後に肥料を与えるお礼肥（おれいごえ）を、早ければ来年度から進めていきたい。

《委員》（当日欠席につき事前聴取）

- ・建設業協会青年部では毎年、地元の高校生と一緒に鶴岡公園の除草や清掃のボランティア活動をしている。今後は、赤川においても地元近隣の小学生と一緒に、除草等のボランティア活動を検討したい。

《委員》（当日欠席につき事前聴取）

- ・整備位置について、櫛引の馬渡地区において高水敷の整生等が計画されているようだが、希少種が生息している地域にもなるので位置を変更したらどうか。

<事務局>

- ・かつては、休日の小学生のボランティア活動として朝陽第五小学校の児童がボランティア活動をしていたが、近年は実施されていない。今後、赤川をより身近に感じてもらえるよう、事務局側でもできる限りの支援を検討していくので、このような取り組みは、是非進めてもらいたい。

- ・希少種生息については、国へも情報提供した。
- ・整備に入るときには環境部門の有識者の意見を聞き、併せてこれまでの調査資料等を活用しながら進める。
- ・維持管理、イベント及び利活用の部分で、委員の皆様が所属する団体もしくは個人でこれまでに提案された内容に限らず、自由な意見、やってみたいこと、実現可能なこと等を是非発言いただきたい。
- ・事務局としては、自主的に組織を立ち上げることに最も苦勞するのではないかと考えている。この点に関し、委員からアドバイスを頂戴願いたい。

【質疑応答】

《会長》

- ・大事なことは、施設は整備して終わりではなく使い回していくこと。そのための維持管理であり、維持管理は重要なテーマだと思う。委員それぞれから、維持管理についてご意見を賜りたい。参考資料としてこれまでのワークショップの意見を纏めたものを配布しているので、ご覧願いたい。

《委員》

- ・いつ誰がどのように等色々な問題があると思うが、この会議で説明し、皆様からそれに対する貴重な意見を貰える場にしたい。
- ・魚のつかみ取りはいつの時期にやるのか。赤川は渇水期になると2トンないし3トンしか水が流れてこないが、その時の体制をどうするのか等を考えていかなければならない。

《委員》

- ・人が来るようにするためには、綺麗にしなければならない。汚ければゴミを捨てられることもある。今ここに集まっているメンバーが何らかの形で維持管理のための組織を立ち上げ、それに共感してくれる方を募集していく感じになればと思う。細く長く、代替わりがあるような組織になればよいと思う。
- ・川に近づかないのは危ないからで、プールを無くしている学校もあるようだ。子どもたちが水で遊べることを習慣づけることを、教育の一環として行っていただきたい。魚を捕まえる等も子どもにとっては嬉しいことで、水際には雑魚しめをしたり泳いだり等もできる。水難事故の危険もあるが、川に行けばある程度の泳ぎができ、山に行けば方位が分かるような、人間が生きていくための最低限の知識を社会教育の一環として与えることも大切なのではないかと思う。今の子どもはゲームやパソコンは上手だが、自然の中で遊ぶ機会が少なく、元気良く外で遊ぶことが重要だと思う。
- ・ひとまず、大人が見本を示し真似させる方法になると思う。大人が手をかけず号令をかけるだけでは誰も動かない。
- ・一度に人を集めると、良い人だけでなく悪い人も含まれてしまう。先ほど防犯カメラの話題もあったが、今の時代は良い人だらけではないことを念頭に置かなければならない。

《委員》

- ・私の地域は赤川のすぐそばで、赤川には親しみがある。
- ・昔の水害の記憶があり、それが原因で子どもが水から離れたと推測される。
- ・国道112号沿いに花を植え、非常に綺麗に維持管理している団体がある。現在の1

12号の工事関係で花壇の方の作業に入っていないようなので、代わりというのは何だが、そのような団体の力を利用し、お願いするのも手かと思う。

- ・鶴岡東高校の運動部の生徒が色々な形で赤川河川敷を使うことが多い。そのため、彼らに要請し、例えば練習後30分間ごみ拾いや草むしりをしてもらう等協力してもらえば、高校生なので毎年人は替わっても継続できる。
- ・馬渡地区は、社会福祉協議会が活動にかなり参加しているようなので、赤川にも力を貸してもらえよう声掛けしてはどうか。
- ・学童保育所が学校のそばに4箇所ある。現在は鶴岡東公園にて遊んでいるが、このような公園ができると、毎日は無理だろうがたぶん遊びに来ると思われる。遊んだ帰りにゴミを拾う習慣が身につけば良いと思う。

《委員》

- ・この協議会に参加するたび、赤川流域がまちとつながる空間になることを非常に楽しみにしている。このわくわく感を、自分だけではなく流域の皆になるべく早く知ってもらいたいと考えている。フェイスブックを開設しているようだが、通行人には分からない状態で、例えば伐木理由についてもかわまちづくりではなく害虫防除の一環とされているようだ。かわまちづくりの一環と分かればわくわくすると思うので、皆と一緒にわくわくできればと思う。今後の看板設置の予定もあるが、リアルタイムに情報発信できるよう、その場ですぐ分かる電光掲示板のような看板も良いと思う。QRコードのようなものをあちこちに設置すれば信号待ちの方の目に入る。「このような情報を発信しています」ということをアピールすることも良いと思う。
- ・資料3-P31のイベント案で、季節ごとの動植物観察会や川の観察会が0ポイントになっているのだが、上位から選んだ結果0ポイントになっただけで、良いと思われることに変わりはない。子どもたちや地域住民のためにも是非実施してほしい。ずっと市が開催するのではなく、そのような情報や知識を得た大人や子どもが、「子どもガイド」等として活躍することも可能で、赤川のことを尋ねれば何でも分かるような、赤川のことを説明できる子どもが特に朝陽第五小学校児童に育てば望ましいと思う。
- ・私が所属する団体では、「まちなか健康ウォーキング」等を行っているが、今後は「かわまち歩き」のような形で開催可能かと思われる。屋内でのイベントも多く、赤川河川敷の新しい空間で開催することは非常に楽しみなのだが、悪天候時が懸念事項である。代替会場が例えば小真木原公園等離れた場所ではなく、もっと近ければ良いと思う。現状思い浮かぶ場所はあまり無く、朝陽第五小学校が改築予定のようなので、小学校の施設利用も含め、赤川河川敷の施設と一貫した施設になるような方策を取ってもらえれば良いと思う。

《委員》

- ・鶴岡市がこのような素敵なかわまちづくりを計画していることに、非常にわくわくしている。
- ・この内容が実現するよう我々も沢山意見を出すので、改善策や代替案等「案」となっている事項が「対応」という形に固まる手前で一度協議会を開催していただき、それが本当に求められている回答なのかを判断する機会を提供願いたい。

《委員》

- ・河川敷は、サッカー、野球、ソフトボール等で使わせてもらっている。
- ・今回の計画で園路等が整備されるのは有難い。
- ・サッカーは4月から11月迄年間を通したリーグ戦を行っており、日曜日はほぼ試合を開催している。グラウンドの整備や芝の管理を運営サイドで行っており、リーグ開催前にグラウンド周辺のゴミ拾い等を全チームで行っている。管理用通路等が整備され範囲が広がればその範囲も広げて美化に努め、皆が利用しやすい施設になれば良いと思う。
- ・ソフトボールや少年野球の会場もあるので、それらの関係団体と連携しながら、より良い美化活動に努めたい。

《委員》

- ・維持管理だけではなく全てにおいて、持続可能にしなければならない。利用者も持続して呼び込まなければならないし、利用後には維持管理が発生するが、維持管理も、持続可能なシステムの構築が必要と思われる。
- ・システム案として1つ目はイベントで、商工関係でも教育関係でも、イベントの開催前や終了後には、利用者が管理を負担する、つまりゴミ拾いをする等明確な管理内容を設けてはどうかと思う。
- ・2つ目は、赤川河川敷は第五学区なので、第五学区の諸団体に、維持管理活動によりポイントを与えるシステムを考えてはどうかと思う。そうすることにより、赤川の維持管理のみならず、建設行政等鶴岡市が抱える色々な維持管理に関わる行政サイドにも利用しやすいシステムになれば非常に良いのではないかと思う。
- ・ボランティアは無償ボランティアになると思うのだが、我々造園建設業協会でも十数年来、学校の校庭や施設の緑地の管理を行っている。行政サイドからボランティアを申し込むことも必要なのではないかと思う。

《委員》

- ・イベント開催にあたり、雨天時、電源及び水道の問題が、赤川河川敷が会場に選ばれない理由と思われる。広すぎることも理由の一つだ。
- ・赤川かわまちづくりの整備のターゲットがぼんやりしている印象がある。ファミリー層を取り込めるのではないかと感じているので、彼らをターゲットにしたイベント開催が有効と思われる。
- ・「下流域」「上流域」「かわまちづくり」「赤川」と複数の名称があり、実際にピンポイントで示したいときにどれを使えばよいか分かりづらい。皆が関心を持つような名称を公募すれば、市民の関心が向くと思う。
- ・今後の整備において、ありきたりのものをつくるのではなく、インスタ映えやデザイン重視したものを設置すれば、より良いものができるのではないかと思う。

《委員》

- ・昔から赤川へ泳ぎに行ったり釣りに行ったりし、川の中で転んで落ちたこともあり、そのような経験から、自然の楽しさや怖さを学んだ。安全安心は大事だが、子どもたちには川を通して楽しさと同時に怖さを体感してもらい、経験を身に付けてほしいと思う。

- ・私は、ターゲットは子どもたちだと考えていた。「賑わい」ということばでイメージするのは子どもたちが楽しそうに遊んでいる場面で、子どもたちに向けた整備を中心にしてもらえればと思う。
- ・維持管理に関し、子どもたちが集まることで将来的に関心を持ってもらえると思うので、若い世代である子どもたちに関わってもらえる機会を作るのが、我々の役目なのではないかと思う。

《委員》

- ・協議会の席次表を見ると各委員の所属が分かり、非常に多様な方々が参加されていることに驚いた。生態系や動植物に関する専門家だけでなく、観光面、造園、地域、スポーツ関係、政策、治水等々、多様な方々が一堂に会しての協議会はそんなに無いのではないかと考えている。これは、赤川及び赤川河川敷が持っている役割が非常に大きなことを示しており、子どもの教育の場でもあり、河川の景観を考えると居住空間とすら言えるのではないかという程度まで幅を広げられるのではないかと考えている。
- ・赤川かわまちづくり事業は、多面的な多様な機能を再評価することになるのではないかと思う。動植物の存在や、川に入って色々な生物を捕まえることは子どもたちにとっては再評価になるし、例えば観光客を呼び込むような新しい価値付けにもなるのではないかと期待している。
- ・こんなに沢山の多様な専門家が居るということは、それぞれの場で発信源があるということに言い換えられると思う。数年後に協議会が完了したときには、それぞれの発信経路が機能していくのではないかと思う。
- ・今後の上流域を含めたスケジュールの再整理を、事務局にお願いしたい。

《委員》

- ・自主組織の立ち上げについて話すよう事務局から依頼があり、説明する。
- ・かわまちづくりは、協議会を作り、その先は協議会が実際に動かすことになっている。
- ・協議会がこの事業を動かすことができるかどうか考えると、難しい側面があるように思う。これは市民協働の限界でもある。平成22年に纏められた「市民活動団体等との協働のススメ」という資料があるが、この協議会の次のミッションは、どのように具体的に行動を起こしていくかである。PPTの図で説明しますが、市民の領域が大きくなればなるほど行政は関与しなくなる。協議会の目指す方向は「双方がお互いの特性を活かし、協力しあいながら事業を行う領域」あるいは「パートナーが主体性を持って行い、行政が協力して事業を行う領域」のいずれかと思われる。推進協議会に課せられた課題、これまで検討してきた利活用に関する維持管理をどうするかなどに関しては、この2つの範囲で考えることではないかと思われる。
- ・協働には2つのかたちがあり、「地縁型」と「テーマ型」がある。地縁型は町内会のようなもの、テーマ型はNPOのようなもので、赤川の場合は、流域の自治会、町内会、漁協、地縁のある団体プラスアルファ、つまり「地縁型」と「テーマ型」をうまく連携させながら協働させることが必要なのではないかと思われる。
- ・協議会が全てを回すには限界がある。同時に行政が協議会に実現してほしいと考えてもなかなか動けない。従って、次の段階として動く組織をどのように立ち上げるかであり、具体的な方向を描く必要がある。事例を紹介するよう依頼されたが、長年の経験から地域によって市民性など様々に異なるため、あまり参考になりにくいので本日はあえて紹介しない。ただ、「全国かわまちづくりマップ」というものがあるので、

是非ご覧いただきたい。

- ・赤川かわまちづくりで動く組織を考えると、主体的に活動する団体を掘り起こすことが重要だが、まず、何をテーマにして動かすかを決める必要がある。維持管理においても利活用においても、赤川を題材に、動かす人たちの賛同者が広がるようなテーマの設定が必要になる。先ほどから何人かの委員から発言がありましたが、「子ども」というのも非常に重要な視点でありテーマだと思われる。
- ・賑わいをつくるために何をしたらよいかの答えは難しい。本日配布の資料2-P4に「ニーズを踏まえ事業を進める」「地域、学校、企業等の協力が見えるように」「どの様に川に関心を持ってもらうか」「システムづくり」は、大変参考になる指摘だと思う。
- ・「賑わいをつくる」という組織の目標は物理的な話であると同時にソフト面での話でもあるが、単なるアイデアの話ではなく、どのように動くのが最適か、が重要だと思う。
- ・今回の協議会に出席している皆様は、様々な団体等を代表する方々で、人脈もあると思う。提案ですが、賑わいをつくることのできる人材を推薦してもらえないだろうか。そうした方々を動かす組織として協議会の下部組織として設けてはどうだろうか。
- ・市は情報発信が問われる。最近、瓦版のようなものを発信している事例もある。現状、この事業に対する市民の認知度が心配である。

<アドバイザー>

- ・河川管理者は国土交通省だが、河川は公共の財産であり皆さんの財産であることを念頭に置いてほしい。代行して国が管理しているということを知っていてほしい。そう考えれば、自宅の庭が汚ければ当然清掃するだろう。
- ・「川に親しめなくなった」「川に人が来ない」も、清掃活動に繋がらないだろうと思う。まずは、赤川に来て知ってもらうことから始めてほしい。地域住民や児童に協力いただき清掃活動をし、常に誰か人が居る状況をつくれば周囲の見方も変わってくると思われるので、お願いしたい。
- ・維持管理については、利用者に周りのゴミも拾ってもらう等の協力をいただくことを知らしめてほしい。また、川は皆の持ち物だと思い、清掃に少しでも参加していただきたい。散歩に来る時も、ゴミ拾いに使えるものを持ってきてほしい。よろしく願いいたします。

(4) 今後のスケジュールについて

… 事務局による資料-1 (P20~P21) の説明 …

【質疑応答】

<<会長>>

- ・本日の報告及び協議事項の中で、「(1) これまでの経過報告」は報告があった。「(2) 整備内容の確認について」も、これまでのワークショップの結果が反映されたものであった。「(3) 利活用、維持管理について」は委員から説明があったが、これはまだ協議すべき事項が残っていると思う。これだけ多様な委員に参加いただいているので、ご自身の守備範囲や得意分野に是非挙手いただきたいし、紹介願いたい。フットワークの軽い集団でありたく、今後も検討事項である。「(4) 今後のスケジュールについて」は、事業計画のスケジュールが変更されてきていることを皆様にも

認識願いたい。令和2年度から、下流域だけでなく上流域にも測量が入ることを認識していただきたい。

- ・本日この協議会で、多様なメニューが短時間で提示された。赤川には魅力的な部分がまだまだ残されているだけでなく、忘れられている部分が沢山あるのだと思う。だんだん川から離れてしまい、イベントや施設だけではなく、川そのものを理解する機会が減っていると思う。「三千刈史」や「馬渡史」等の地史を読むと、そこに掲載されている「川」は、まだ残っており、かわまちづくりの維持管理等の取り組みの結果、子どもたちがそのような川を訪れるようになれば感慨深いのではないかと思われる。
- ・スケジュールにもあるように、第3回かわまちづくり推進協議会が令和2年6月もしくは7月に予定されている。今年は雪が少ないので、それまでに是非赤川へ行き、いろいろなイメージを喚起いただいてより具体的な提案を頂ければと思う。

進行：事務局へ

5. その他

… 意見・質問等なし …

6. 閉会

- ・都市計画課長による閉会宣言